

科目	音楽Ⅱ	単位数	2	学年	2	学級	A~I 選択者	学科	普通科 国際教養科
----	-----	-----	---	----	---	----	------------	----	--------------

学習の到達目標	<p>○音楽に対する興味・関心を更に深め、積極的に音楽活動に取り組む姿勢を高めます。</p> <p>○音楽的な感性・技術を高め、歌詞の内容や曲想を理解しながら独自のアレンジを加えられる、個性豊かな表現の能力を養います。</p> <p>○様々なジャンルの音楽文化について、楽曲の構造を理解し、またその歴史的・文化的な背景に基づきながらその価値や特徴を理解し、音楽を愛好する心情を育てます。</p>
使用教科書 副教材等	○高校音楽Ⅱ Music View (教育出版)

学期	月	学習項目	学習内容の説明						
前期	4	授業ガイダンス	音楽Ⅱの学習内容、授業の受け方、評価方法を理解します。						
	5	歌唱 歌唱 ○発声法	<table border="1"> <tr> <th>歌唱</th> <th>器楽</th> <th>鑑賞・創作</th> </tr> <tr> <td>音楽Ⅰより学習している発声の基本的な方法(声や息の支え、レガート唱法、母音唱法)を復習します。声の出しやすい様々な曲を斉唱し、のびのびと声が出るよう発声を工夫します。楽曲は生徒の実態・実情に合わせて選曲して行きます。</td> <td>ミュージックベルは楽器の扱い方、演奏姿勢、一人一人の分担音の大切さを学習し、グループでのまとまった演奏表現を工夫します。</td> <td>歌唱・器楽教材で取り上げる曲を中心として鑑賞して行きます。  ボディーパーカッションは創作を交えながら、演奏します。</td> </tr> </table>	歌唱	器楽	鑑賞・創作	音楽Ⅰより学習している発声の基本的な方法(声や息の支え、レガート唱法、母音唱法)を復習します。声の出しやすい様々な曲を斉唱し、のびのびと声が出るよう発声を工夫します。楽曲は生徒の実態・実情に合わせて選曲して行きます。	ミュージックベルは楽器の扱い方、演奏姿勢、一人一人の分担音の大切さを学習し、グループでのまとまった演奏表現を工夫します。	歌唱・器楽教材で取り上げる曲を中心として鑑賞して行きます。  ボディーパーカッションは創作を交えながら、演奏します。
	歌唱	器楽		鑑賞・創作					
	音楽Ⅰより学習している発声の基本的な方法(声や息の支え、レガート唱法、母音唱法)を復習します。声の出しやすい様々な曲を斉唱し、のびのびと声が出るよう発声を工夫します。楽曲は生徒の実態・実情に合わせて選曲して行きます。	ミュージックベルは楽器の扱い方、演奏姿勢、一人一人の分担音の大切さを学習し、グループでのまとまった演奏表現を工夫します。		歌唱・器楽教材で取り上げる曲を中心として鑑賞して行きます。  ボディーパーカッションは創作を交えながら、演奏します。					
	6	○日本の歌							
7	○ミュージックベルの演奏								
8 9	○世界の歌								
後期	10	○アジアの歌	<table border="1"> <tr> <th>歌唱</th> <th>器楽</th> <th>鑑賞・創作</th> </tr> <tr> <td>修学旅行と関連してアジアの楽曲を学習します。  発声練習やハーモニートレーニングを取り入れながら、混声3部の合唱曲を学習します。各クラスの生徒の実態に応じて選曲をします。合唱の響きを味わい、表現を工夫させたり、ハーモニーが重なり合うときの美しさを感じ取ります。</td> <td>音楽Ⅰよりもさらに発展した、難度の高い楽曲を練習します。  楽器の持ち方、扱い方、姿勢、楽器の構造、調弦の必要性・方法、押さえ方、弾き方などを習得します。簡単なメロディーの曲から演奏し、ギターの色々の美しさを感じます。</td> <td>ミュージカルの総合芸術としてのすばらしさを理解します。  古典派・ロマン派の音楽(管弦楽・器楽・声楽)を鑑賞し、編成や曲の背景等について理解します。</td> </tr> </table>	歌唱	器楽	鑑賞・創作	修学旅行と関連してアジアの楽曲を学習します。  発声練習やハーモニートレーニングを取り入れながら、混声3部の合唱曲を学習します。各クラスの生徒の実態に応じて選曲をします。合唱の響きを味わい、表現を工夫させたり、ハーモニーが重なり合うときの美しさを感じ取ります。	音楽Ⅰよりもさらに発展した、難度の高い楽曲を練習します。  楽器の持ち方、扱い方、姿勢、楽器の構造、調弦の必要性・方法、押さえ方、弾き方などを習得します。簡単なメロディーの曲から演奏し、ギターの色々の美しさを感じます。	ミュージカルの総合芸術としてのすばらしさを理解します。  古典派・ロマン派の音楽(管弦楽・器楽・声楽)を鑑賞し、編成や曲の背景等について理解します。
	歌唱	器楽		鑑賞・創作					
	修学旅行と関連してアジアの楽曲を学習します。  発声練習やハーモニートレーニングを取り入れながら、混声3部の合唱曲を学習します。各クラスの生徒の実態に応じて選曲をします。合唱の響きを味わい、表現を工夫させたり、ハーモニーが重なり合うときの美しさを感じ取ります。	音楽Ⅰよりもさらに発展した、難度の高い楽曲を練習します。  楽器の持ち方、扱い方、姿勢、楽器の構造、調弦の必要性・方法、押さえ方、弾き方などを習得します。簡単なメロディーの曲から演奏し、ギターの色々の美しさを感じます。		ミュージカルの総合芸術としてのすばらしさを理解します。  古典派・ロマン派の音楽(管弦楽・器楽・声楽)を鑑賞し、編成や曲の背景等について理解します。					
	11	○合唱曲							
	12	○ギター							
	1	○ギターの表現							
	2	○基本奏法の学習							
3	○ギターの演奏								
3	○クラシックの鑑賞								
評価の観点及び評価の方法	音楽への関心・意欲・態度	○音楽上の幅広いジャンルに対して興味関心を高めているか。 ○意欲的に楽曲演奏に取り組むと共に、アンサンブル授業における友人との協調性と積極性等の観点において的確に行動できているか。							
	音楽表現の創意工夫	○楽曲・音楽ジャンルの特質を良く知覚した上で、それが生み出す曲想や美しさを感じ取って自己の解釈をしたうえで、個性豊かな表現の工夫をしているか。							
	音楽表現の技能	○曲の構成及び曲想を生かしながら創造的に表現する技能を身に付けているか。							
	鑑賞の能力	○鑑賞教材の種類と形式、文化的背景を理解し楽曲を聴き取っているか。							
	評価方法	○演奏活動への参加の仕方や授業中の態度 ○プリント、レポート等の提出状況 ○出欠状況や遅刻・忘れ物状況 ○楽器・楽譜の管理状況 ○実技テスト(グループ発表含)							
担当教諭から	音楽Ⅰで学習してきたことを生かしつつ、更に様々な視点から音楽に触れていきたいと考えています。音楽は「学ぶ」ものではなく、「自然に自分の生活の中に存在している」ものであり、時には感情表現の手段にもなります。音楽は日々の積み重ねが何より大切です。頑張れば頑張る程成果が得られます。授業1時間1時間を大切に、真から楽しいと思える「自分だけの音楽」をこの1年間の授業の中で見つけて下さい。								